

報告

ホノルルマラソンに参加して ——「夢のような空間でした」——



寺田 剛

もともと、ホノルルマラソンに挑戦を決めたのは、2009年正月の初夢で、ホノルルを走っている夢を見たからです。もちろんマラソンなんて経験したことはありませんし、ここ数年運動らしいことなどしたこともない普通の運動不足のおじさんです（笑）何故、そんな夢を見たのかは今でも不思議なくらいです。

人生の中で「初夢」が「正夢」になった経験がないものですから、「正夢」にするべく、挑戦を決めました。初めは5キロさえ走れませんでした。そこで、プールで歩くことからスタートして、びわこ成蹊スポーツ大学の講座に通い、自分なりにコツコツ準備を積み重ねてハワイを目指しました。

そして、本番当日。

朝5時の暗闇の中のスタート。眠たい目をこすりながらスタート地点に向かいました。花火が打ち上げられ、ホノルルの熱いお祭りがスタート！！アラモアナ公園から、ヨットハーバーを横目に見ながらダウンタウンを通り過ぎます。まだ、真っ暗。市役所のサンタのイルミネーションがやたらに綺麗で、立ち止まって写メを撮ってるランナーも多数います。（笑）このあたりがお祭りの雰囲気ですね。

8キロくらいの地点でワイキキビーチのあるメイン通りカラカウワ通りを通過。まだ暗いのですが、このあたりで沿道の拍手と歓声に迎えます。「GO, GO!」「GOOD JOB」「がんばれ～!」などなど。

ちょっとした、ヒーロー気分で気持ちよく手を振りながら走れます。

10キロくらいの地点で、ゴールのカピオラニ公園を横目に見ながらダイヤモンドヘッドの上り坂に挑みます。山の中腹あたりで、先にスタートした車イスランナーの先頭が折り返して来て、すれ違います。ランナーたちが拍手で健闘をたたえ合っています。この一体感がたまらなくよかったですね。

ダイヤモンドヘッドから住宅街を通過して、ハイウェイに向かうあたりで、日が昇って明るくな

りました。ハイウェイに入って、折り返しまで、直線の長いこと長いこと（苦笑）

途中、高橋尚子さんが応援してくれてハイタッチしました（V）

長いハイウェイを折り返してまた、戻ります。これが精神的にキツイ！

30キロ手前の地点で足に痙攣がきて、エアースロンパスを噴きかけてなんとか走ります。35キロからは、練習でも未知の世界。必死のパッチでした。全然覚えてません。

そこを乗り越えると、感動で涙が自然と出てきました。「なんで俺泣いてるんだろ？？」ってくらいに自然に出てきます。「あかん！！笑顔でゴールするんだ！！」って自分に言い聞かせて走りました。

40キロくらいの地点ではあのダイヤモンドヘッドの坂が待っています。涙が冷や汗に変わりました（笑）沿道の声援に励まされ、乗り越えると、カピオラニ公園のゴールが見えてきます。両サイドには大観衆。拍手に迎えられるながら、楽しんで走りました。有森裕子さんからも声援をいただきました。そして、フィニッシュ。

ゴールのスタッフとハイタッチして、レイをかけてもらい、記念写真を1枚。リンゴとクッキーをもらって食べました。これがまた、オイシイ！あのリンゴの味は忘れられないですね！！

「ホノルルマラソンとは？」と聞かれたら、「人生の宝物にいっぱい出会える場所」と答えますね。新しい自分に出会えたり、感動や充実感、刺激や一体感、感謝や希望、勇気や冒険、目標やチャレンジなど、日常生活で味わえたらきっと幸せな事と思える感情が42.195キロの中に一杯詰まっていると思います。人生がマラソンに例えられる理由がよくわかりました。「苦しいイメージの例え」ではなく、「人生で味わいたい感情が詰まっている」からだと思います。ホノルルは宝物にしたい夢のような空間でした。